

第4回



旅は人生のスパイスです!

空も輝く、私も輝く 「オーロラの旅」

～一生に一度は見たい神秘の天空絵巻～

旅のコラムニスト 松本すみ子

旅のベテランであるシニア世代は、ほとんどの国を旅してしまっただけかもしれません。観光地は行きさえすれば、見て聞いて、体験できます。しかし、“思うに任せぬ旅”というものもあります。その一つがオーロラです。それでもなお、“気まぐれ天体ショー”に出会いたくて、多くの人たちが旅立つのです。

必ず見られる場所はどこ?

ある時、旅行社の人に尋ねました。「必ずオーロラを見られる場所はあるの?」答えは「ありません」。それはそうです。どんなに高い旅行代金を払っても、これだけは無理。



©Nick Russill

しかし、それなら余計に見たくなります。オーロラが見やすい場所はどこか、調べてみました。地球の北緯65～70度あたりはオーロラベルトと呼ばれており、1年を通してオーロラが発生していますが、だからといって、見えるわけではありません。その時の環境や気象条件で決まるのです。観測地点としては、ヨーロッパ方面ではフィンランド、ノルウェー、スウェーデンの北部(ラップランド地方)とアイスランド、グリーンランド。また、アメリカ大陸方面ではアラスカのフェアバンクス、カナダのイエローナイフやホワイトホースが有名です。さて、どこに行ったらいいのでしょうか。

ラップランドのオーロラと犬ぞり

結局、フィンランドの北部・ラップランド地方を選択しました。レヴィという町でオーロラを観測し、ロシアのサンク

トペテルブルクにも立ち寄るツアーです。もしも遭遇できなくても、帰ってきて話のタネになるものがほしかったのです。いわば、保険をかけたようなものですね。

レヴィでは最初の夜にオーロラを見ることができました。あまり大

きなオーロラではありませんでしたが。これは幸先がいいと喜んだものの、その後は現れることはありませんでした。皆で「出し惜みしているね」と話し合ったものです。

しかし、それを補う楽しみがありました。昼間は自由ですから、ウィンターアクティビティーを楽しめます。特に気に入ったのは「犬ぞり」。5頭の犬を操りながら(教えてくれて、先導も)、青空の下、雪原を走る爽快さ。何度でも乗ってみたいと思いました。また、知り合いになったフィンランド出身の兄妹がレヴィの町を車で案内してくれたのも、嬉しい体験でした。

少し南のロバニエミという町には有名なサンタクロース村があります。1年中、クリスマスグッズを販売しており、サンタクロースハウスではサンタさんと一緒に写真を撮ることが出来ます。いつのまにか童心に戻っていました。

ロバニエミからヘルシンキまでは「サンタクロースエクスプレス」という寝台車が走っています。異国での列車の旅もいいものです。そして、後半の2日間はロシアのサンクトペテルブルクで、エカテリーナ宮殿やエルミタージュ美術館などを堪能し、帰途についたのでした。

でも、やはり心残りが…。空が燃えるような華々しいオーロラを見たいのです。「いつか、また、きっと」と考えています。



発行者 公益財団法人 **ダイヤ高齢社会研究財団**

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-34-5 直田ビル3階
TEL:03-5919-1631 FAX:03-5919-1641
E-mail:info@dia.or.jp http://www.dia.or.jp

編集人:鈴木章一 デザイン・印刷:橋本確文堂(三菱製紙ホワイトニューVマット) 発行:2015.1.25 No.80